



三川内焼はまぜん祭りの三川内焼オークションで、真剣なまなざしで競りに参加する陶磁器愛好家たち

九じろうの取材日記

佐世保市国際交流員
チン シュンコウ
陳 春泓さん

ことし4月12日付けで、中国・福建省廈門市から国際交流員として、本市の文化交流課に着任した陳春泓さんをご紹介します。

佐世保の印象は「清・静・親」
来日前、「佐世保」といえばハウ

ステンボスと九十九島の名前が有名だったと陳さん。初来日で直接目にした佐世保は、「コンビニエンスストアなどが充実した便利な街。その上、清潔で騒音が少なく人々は親しみやすい」と好感度は上々です。陳さん自身の体験から市民と外国人との交流活動も活発で、まさに「国際的な都市」という印象を強くしているそうです。

テレビ番組で日本語を習得

廈門市では、中国語の字幕付きで、日本語のテレビドラマやアニメ番組が放映されています。陳さんも「一休さん」や「東京ラブストーリー」などの番組を通して、幼いころから日本語に親しむ機会を得ていたそうです。



陳 春泓(チン・シュンコウ)さん
昨年8月から廈門市人民政府外事弁公室に勤務。ことし4月からは本市の国際交流員として通訳、翻訳などの業務に就く。新型肺炎の影響で、昨春から延期されていた本市と廈門市の「友好都市締結20周年」の記念事業に向けて奮闘中。

PUBLIC RELATIONS SASEBO



技術研修生の傅諾毅(フ・ダクキ)さん(写真・左手前)と黄辰(コウ・シン)さん(写真・左奥)に日本語を講義

福建師範大学在学中は、視野を広げるために、日本語を専攻した陳さん。日常生活に不自由はないそうですが、佐世保でよく聞く方言の「よかよか」に「結構ですよ」などの意味があることが分かるまでは戸惑ったそうです。

日本語教師としての責任

陳さんは、通訳や翻訳のほか、技術研修生として廈門から佐世保にきている傅諾毅さんと黄辰さんに日本語を教えています。語学研修中の二人には「宿題も出さず試験もします」と教師としての厳しい表情を見せる陳さんですが、その裏には、「3カ月という短い期間で、日本語を習得しなければならぬ二人が、一つでも多くの言

葉を覚えられるように」という温かい配慮が見られました。

茶道に学ぶ日本文化

「この一年間で日本の伝統文化を理解したい」と意欲を見せる陳さん。特に、着物や生け花、陶器など、いくつかの芸術が複合されている茶道に興味があるそうです。また、「YOSAKOI祭り」が佐世保市の文化として根付いているように、応援しているそうです。

最後に、市民の皆さんとの交流を通して、お互いの文化や考え方を理解していきたいという陳さんから、「中国語や料理などについて、ご質問をお持ちの人は遠慮なく声を掛けてください」とのメッセージをいただきました。お尋ねは、市役所文化交流課にどうぞ。

編集長から「一言」

外国人に会っていつも感じることは、顔立ちや習慣は違っても人間の心は同じだということ。市長と外国人との対談に参加して、若者たちによる世界規模の新しい形の交流が始まればと思いましたが、それにしても、参加者たちの日本語の流ちょうなことには、驚かされました。(一)



広報 させぼ

広報 No.643

市長と対談 特集 国際化の中の佐世保

2 ~ 5 p



広報させぼ 編集長「キューちゃん」

今月の主な内容

- 市町村合併、市民協働など 6 ~ 9 p
- 市民の広場 10 ~ 11 p
- 施設だより、イベント 12 ~ 13 p
- 歴史散歩、カレンダー、テレホンガイド 22 ~ 23 p
- 九じろうの取材日記 24 p



広報 させぼ

平成16年6月1日発行

佐世保市役所企画調整部秘書課広報係 TEL0956-24-1111 FAX25-2184 〒857-8585(市役所専用)長崎県佐世保市八幡町1-10 http://www.city.sasebo.nagasaki.jp 印刷/サン印刷株式会社

